

全般季節予報支援資料

1か月予報

2026年8月13日

予報期間：8月15日～9月14日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

北日本では、期間の前半は気温がかなり高くなる所がある見込みです。
東・西日本では、向こう1か月程度は気温の高い状態が続く見込みです。
西日本日本海側では、今後2週間程度は降水量の少ない状態が続く見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北・東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
北・東日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
西日本日本海側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
西日本太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	40:40:20 40:30:30	20:40:40 30:30:40	
東日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	40:40:20 30:40:30	20:40:40 30:40:30	
西日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	50:30:20 40:40:20	20:40:40 30:30:40	
沖縄・奄美		20:30:50	30:30:40	40:30:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:20:70	10:20:70	10:20:70
東日本	10:40:50	10:20:70	10:30:60
西日本	10:40:50	10:30:60	10:40:50
沖縄・奄美	40:40:20	20:30:50	10:40:50

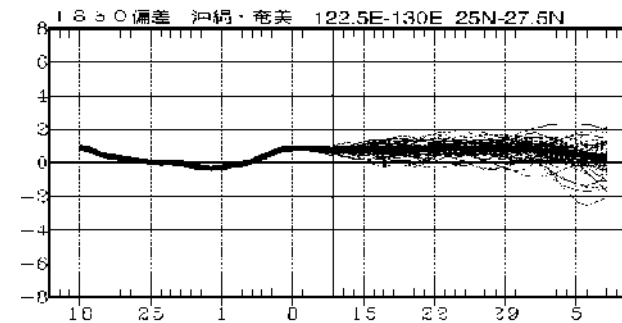
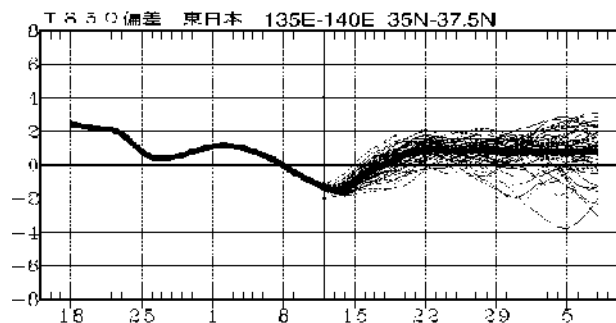
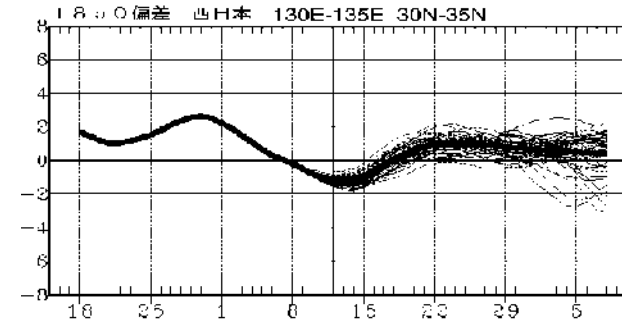
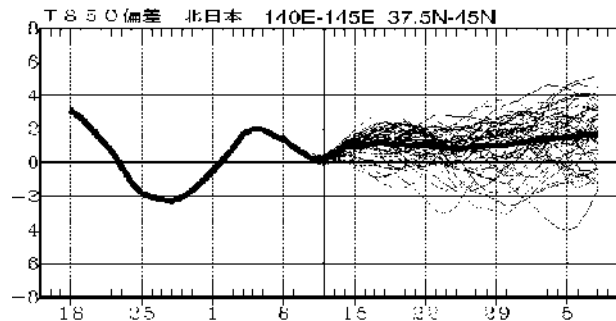
全般1か月予報のポイント

- ・北日本と沖縄・奄美では暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。北日本では、期間の前半は気温がかなり高くなる所がある見込みです。
- ・東・西日本では7月から暖かい空気に覆われ、気温の高い状態が続いています。今後1か月程度も、暖かい空気に覆われやすいため気温の高い状態が続き、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- ・北・東日本日本海側では高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、向こう1か月の日照時間は平年並か多いでしょう。
- ・西日本日本海側では7月から高気圧に覆われやすく、降水量の少ない状態が続いています。今後2週間程度も湿った空気の影響を受けにくいため降水量の少ない状態が続く見込みです。向こう1か月の降水量は少なく、向こう1か月の日照時間は平年並か多いでしょう。
- ・西日本太平洋側では湿った空気の影響を受けにくいため、向こう1か月の降水量は平年並か少ないでしょう。

各週における天候のポイント(気温)

	1週目(8/15～8/21)	2週目(8/22～8/28)	3～4週目(8/29～9/11)
想定される天候(気温)	北・東・西日本は高温で、北日本ではかなり高くなる所もある。沖縄・奄美は低温傾向。	全国で高温で、北日本ではかなり高くなる所もある。	全国で高温。
根拠	北日本を中心に暖かい空気に覆われやすいが、沖縄・奄美は低い海面水温を考慮。(P12,P13参照)	北日本を中心に暖かい空気に覆われやすい。(P12,P13参照)	全国的に暖かい空気に覆われやすい。(P12,P13参照)

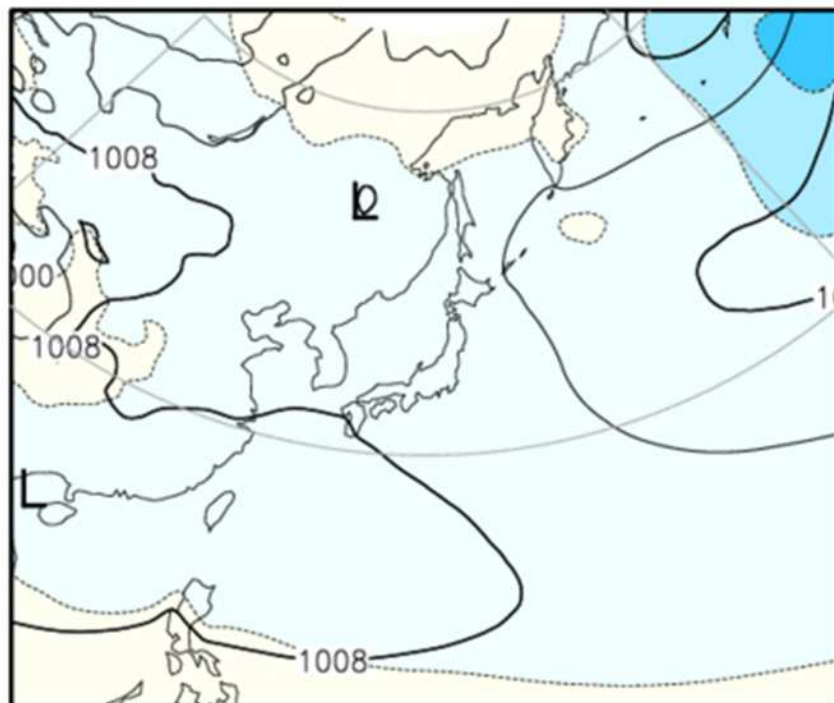
850hPa気温 偏差時系列



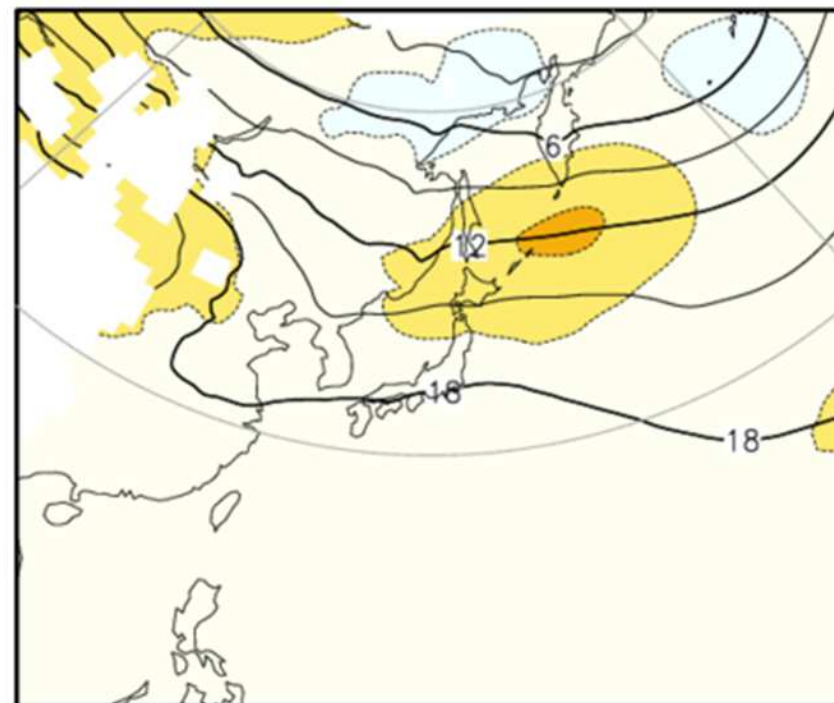
各週における天候のポイント(天気)

	1週目(8/15～8/21)	2週目(8/22～8/28)	3～4週目(8/29～9/11)
想定される 天候 (天気)	北・東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 北・東日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 西日本日本海側では、湿った空気の影響を受けにくいいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。	北・東日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	北・東日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
根拠	高気圧に覆われやすいため、北・東日本日本海側は少雨多照傾向。北日本太平洋側は少雨傾向。 湿った空気の影響を受けにくいため、西日本日本海側は少雨多照傾向。西日本太平洋側は少雨傾向。 湿った空気の影響を受けやすいため、沖縄・奄美は寡照傾向。 (P10-P13参照)	おおむね平年と同様の天候。 (P10-P13参照)	おおむね平年と同様の天候。 (P10-P13参照)

海面気圧(1か月)



上空約1500mの気温(1か月)

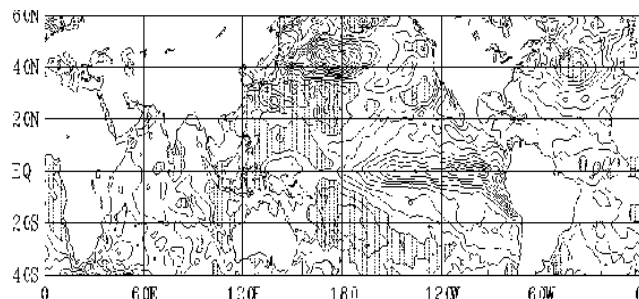


1か月平均の海面気圧(左図)は、日本付近では平年より低いですが、華北から千島近海にかけて高圧部となっており、期間のはじめを中心に北日本や東日本日本海側を中心に高気圧に覆われやすいでしょう。また、西日本日本海側を中心に、湿った空気の影響を受けにくいでしょう。

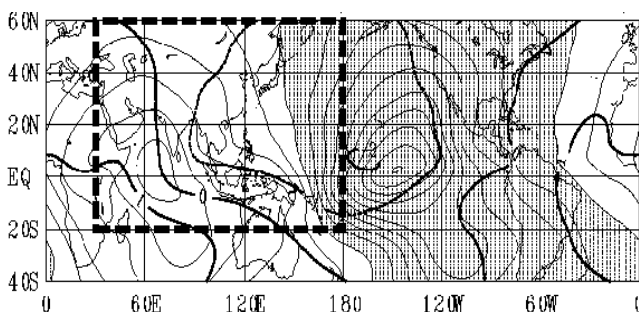
上空約1500mの気温(右図)は、日本付近は北日本を中心に平年より高く、全国的に暖かい空気に覆われやすいでしょう。

予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

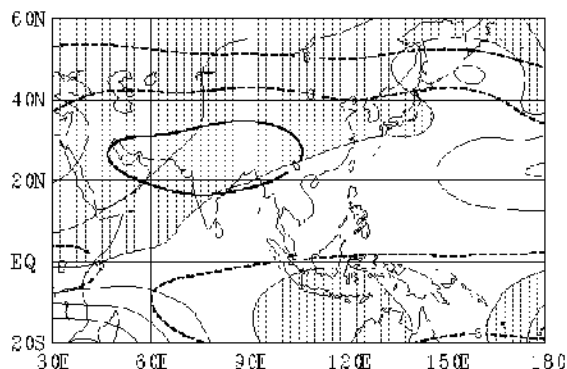
SST偏差



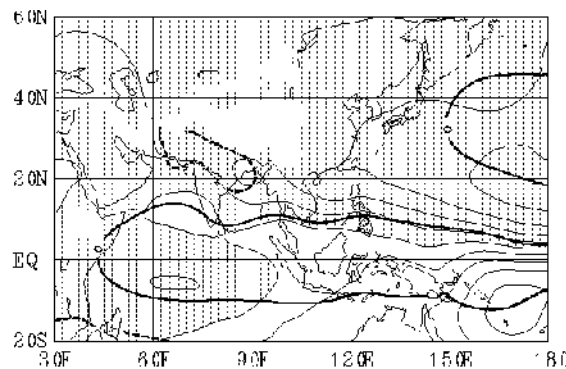
200hPa速度ポテンシャル



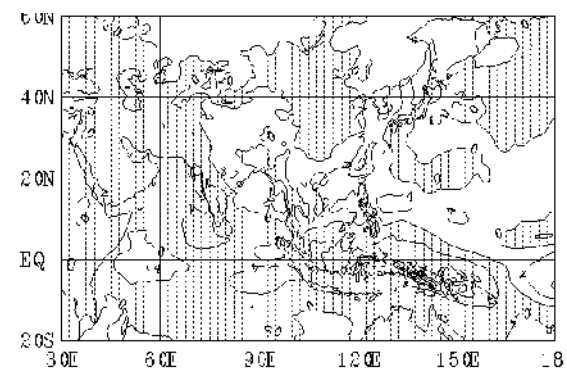
200hPa流線関数



850hPa流線関数



降水量偏差



SST偏差は、太平洋熱帯域では中・東部で正偏差、西部で負偏差。

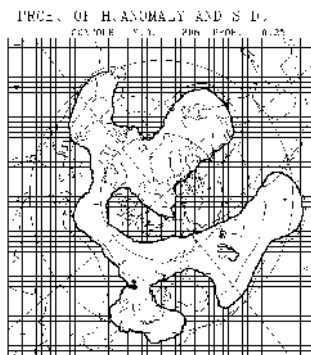
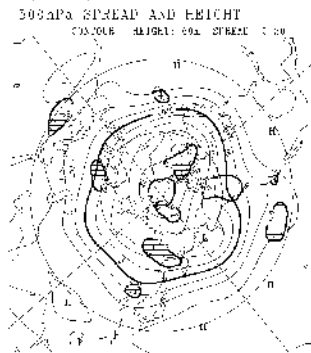
200hPa速度ポテンシャルは、熱帯の対流活動に対応して太平洋熱帯域の中部を中心に上層発散偏差、インド洋西部を中心に上層収束偏差。

200hPa流線関数は、熱帯の対流活動に対応して、日付変更線付近を中心に高気圧性循環偏差。また、千島近海でも高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数は、日本の南から日付変更線付近にかけて低気圧性循環偏差。

降水量は、ベンガル湾、南シナ海、フィリピンの東で多雨偏差。インドネシア付近で少雨偏差。

予報資料の解釈(1か月) 北半球循環場



500hPa高度

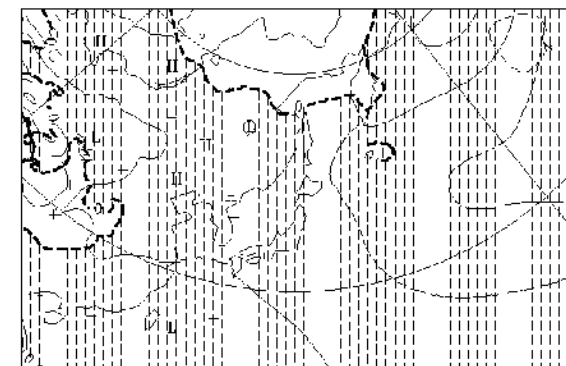
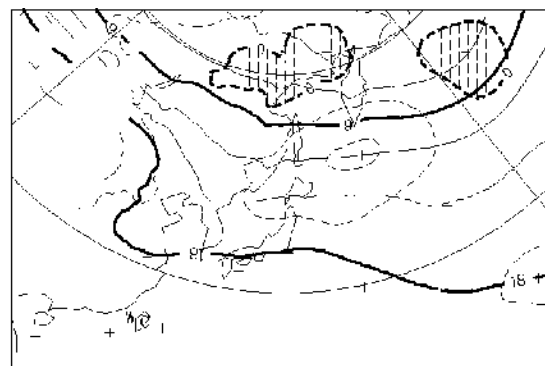
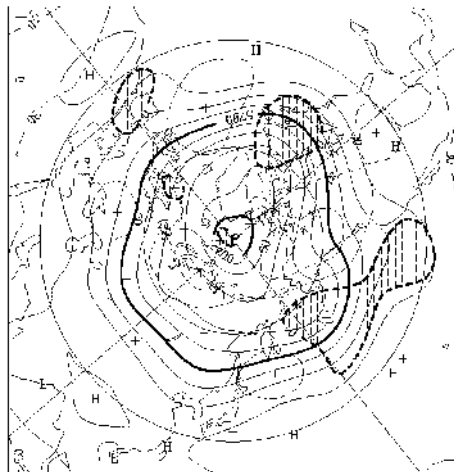
500hPa高度は、ユーラシア大陸からカムチャツカ半島付近にかけて広く正偏差で、波列が見られ、中国東北区でトラフ、千島近海でリッジとなっている。オホーツク海北部ではスプレッドが大きい。

850hPa気温は、日本付近は北日本を中心に平年より高く、全国的に暖かい空気に覆われやすい。

海面気圧は、日本付近では平年より低い、華北から千島近海にかけて高圧部となっており、期間のはじめを中心に北日本や東日本日本海側を中心に高気圧に覆われやすい。また、西日本日本海側を中心に、湿った空気の影響を受けにくい。

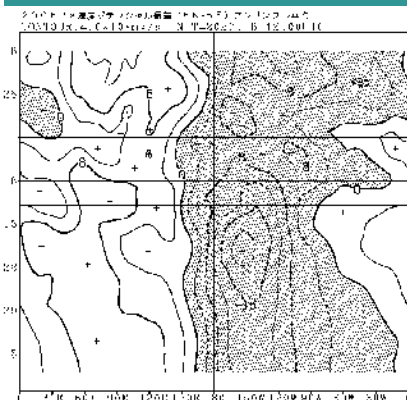
850hPa気温

海面気圧



予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

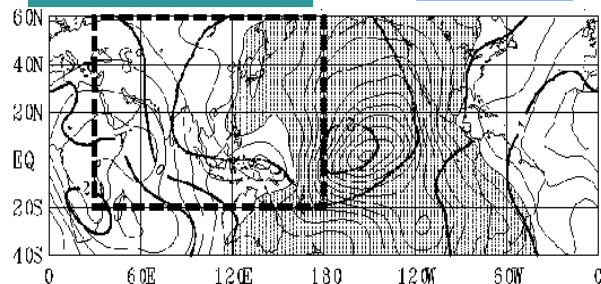
200hPa速度ポテンシャル偏差時系列



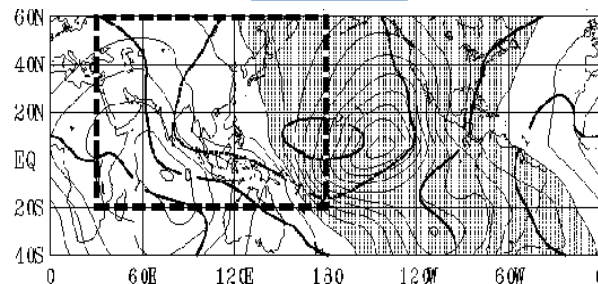
200hPa速度ポテンシャルは、熱帯季節内変動が不明瞭で、期間を通して太平洋熱帯域の中部を中心に上層発散偏差。一方、インド洋は西部から中部を中心に上層収束偏差。降水量は、1週目は北・東・西日本で少雨偏差。1～2週目は南シナ海、ベンガル湾及びフィリピンの東で多雨偏差。期間を通じてインドネシア付近で少雨偏差。

200hPa速度ポテンシャル

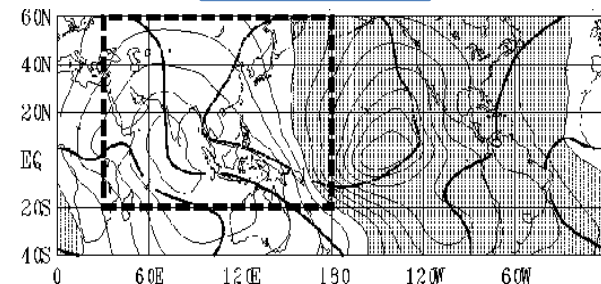
1週目



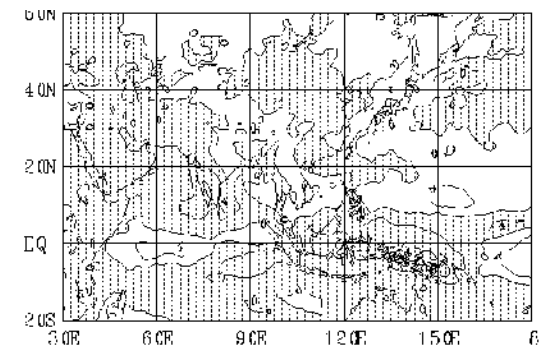
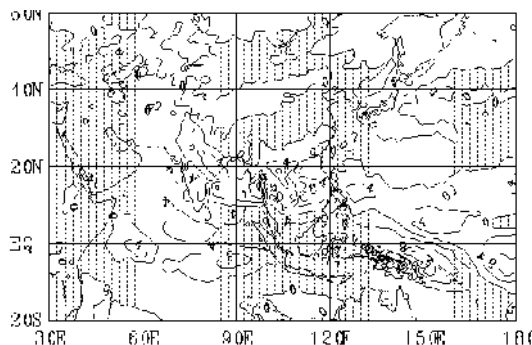
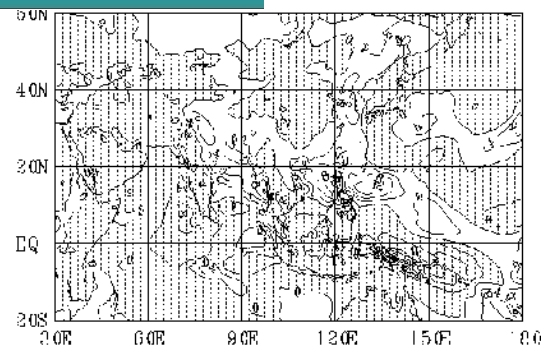
2週目



3～4週目



降水量偏差



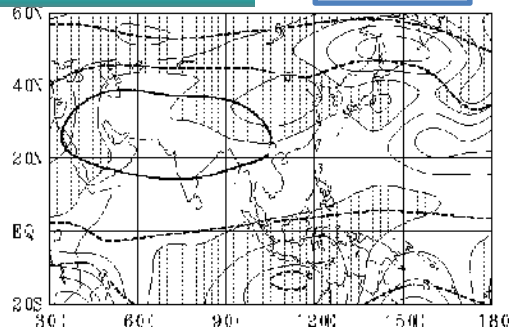
予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場

200hPa流線関数は、期間を通して日付変更線の西で高気圧性循環偏差。中緯度帯は波列が期間を通して見られ、1週目のサハリン付近の高気圧性循環偏差は、2週目には中国東北区に西進する。3～4週目には千島近海で高気圧性循環偏差が、中国東北区付近で低気圧性循環偏差が明瞭となる。

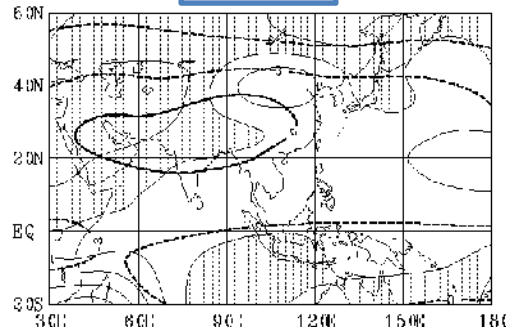
850hPa流線関数は、2週目は日付変更線の西で低気圧性循環偏差が明瞭となり、3～4週目には日本の南でも低気圧性循環偏差となる。

200hPa流線関数

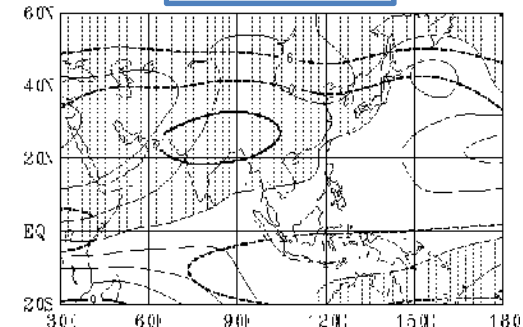
1週目



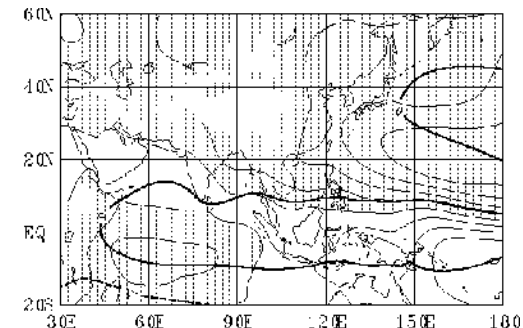
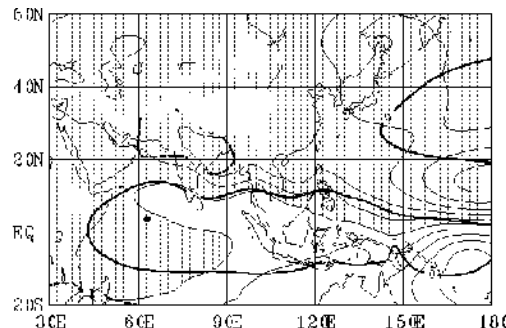
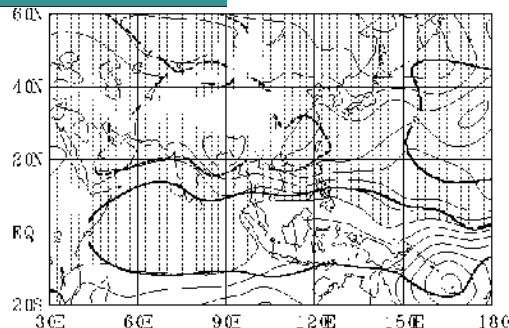
2週目



3～4週目



850hPa流線関数

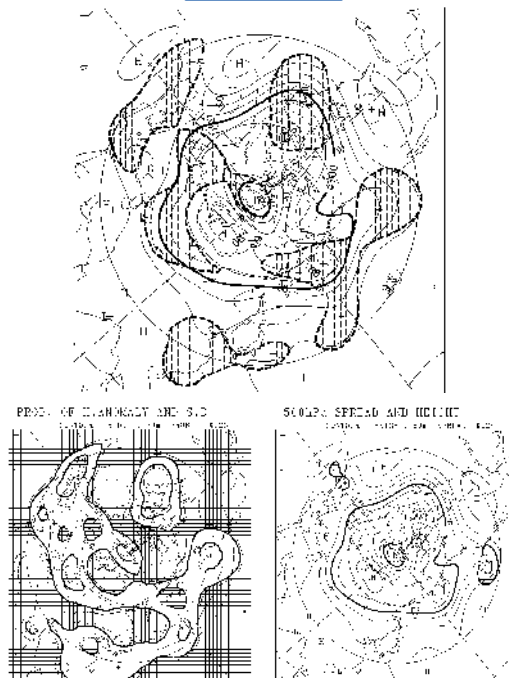


予報資料の解釈(各週) 北半球循環場

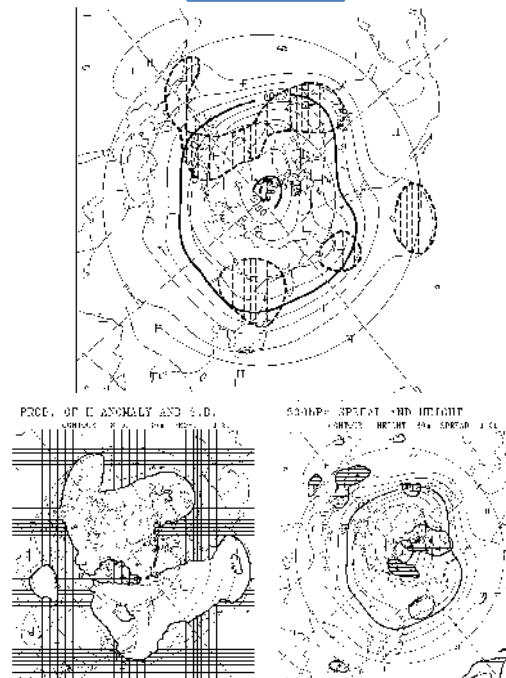
500hPa高度は、1週目は日本の南で負偏差の一方、北日本中心にリッジ場で正偏差。2週目は沿海州付近でトラフとなり北海道付近で負偏差の一方、本州以南は正偏差。3～4週目は中国東北区付近がトラフとなり、北日本を中心にやや西谷傾向となる。なお、2週目はカムチャツカ半島付近、3～4週目は華北、カムチャツカ半島付近と日本の南でスプレッドが大きい。

500hPa高度

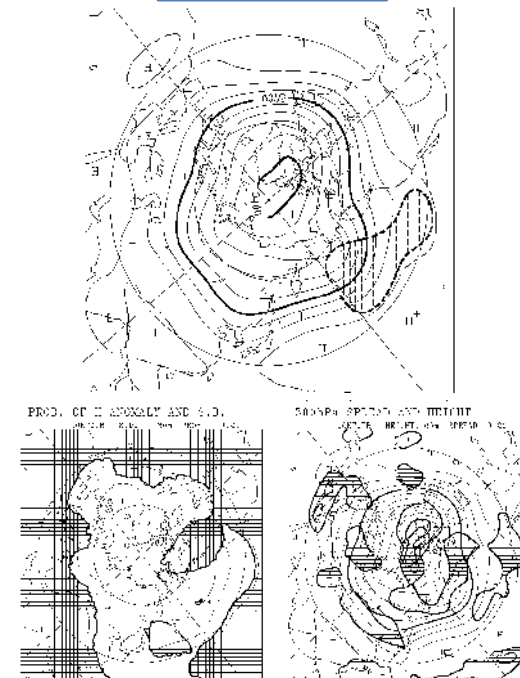
1週目



2週目



3～4週目



予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

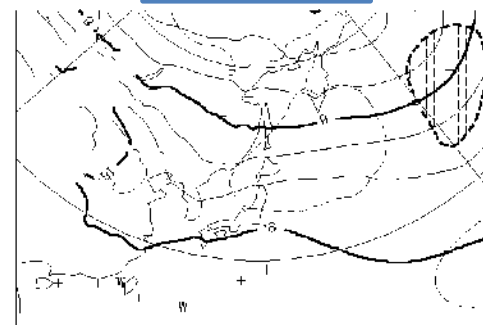
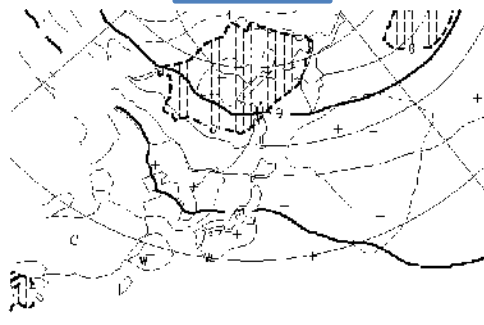
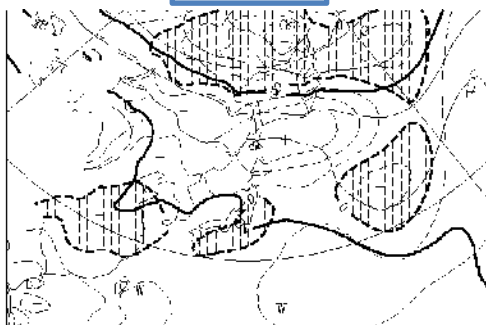
850hPa気温は、1週目は、北日本を中心に正偏差。一方、東日本太平洋側中心に負偏差だが平年からの隔たりは小さい。2週目以降は日本付近は概ね正偏差。
海面気圧は、1週目は北日本付近を中心に正偏差で、北日本や東日本日本海側は高気圧に覆われやすい。1、2週目は西日本日本海側を中心に湿った空気の影響を受けにくい。1週目は沖縄・奄美は湿った空気の影響を受けやすい。2週目は沿海州付近が低気圧となり、日本付近には暖かい空気が流れこみやすいが、期間のはじめは北日本や東日本日本海側は高気圧に覆われやすい。3～4週目は日本の東の高気圧が千島近海に張り出し、北日本に暖かくやや湿った空気が流れ込みやすい。

1週目

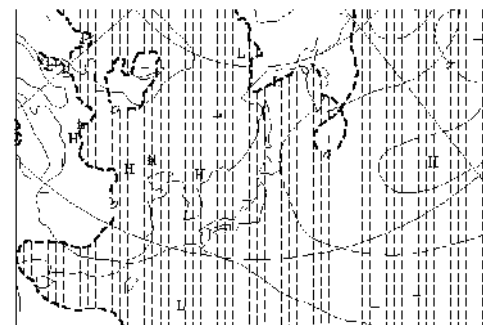
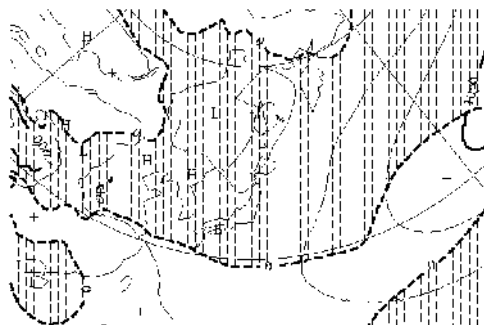
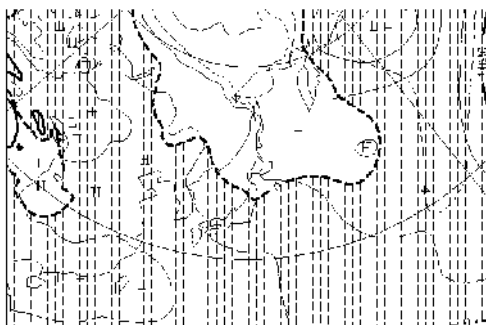
2週目

3～4週目

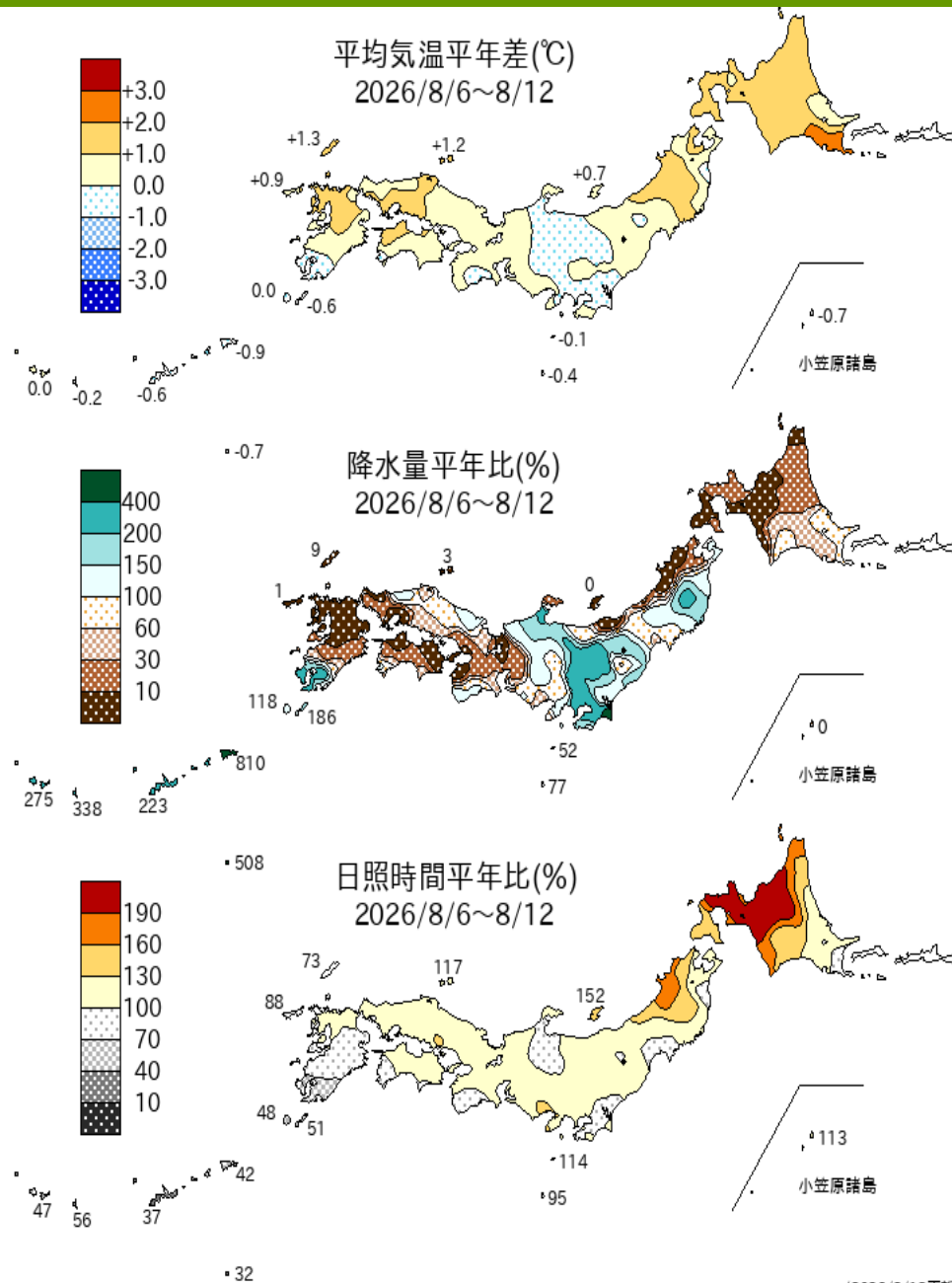
850hPa気温



海面気圧



(参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(8月6日～8月12日)は、期間のはじめは日本のはるか東に中心を持つ高気圧が北・東日本を中心に張り出しましたが、8月8日から9日頃にかけて北日本を通過した前線の影響、及び期間後半の台風第15号の影響により、東北太平洋側や東日本で降水量が多くなった所がありました。また、期間の前半に台風第13号が日本の南を西へ進み、沖縄付近を通過しました。このため、沖縄・奄美を中心に降水量が多くなりました。その他は降水量が平年を下回った所が多くなりました。日照時間は、北日本日本海側を中心に平年を上回り、沖縄・奄美を中心に平年を下回りました。

気温は、高気圧に覆われやすかった北日本や湿った空気の影響を受けにくかった西日本で平年を上回った所が多く、8月7日には西日本日本海側を中心に酷暑日に迫る所がありました。一方、沖縄・奄美は悪天の影響で平年を下回った所が多くなりました。